



2022（令和4）年1月23日発行
 （編集）愛光本部経営企画室
 （TEL）043-484-6391
 （HP）<http://www.rc-aikoh.or.jp/>

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。
 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、蔓延（まんえん）防止等重点措置が適用される所が増えています。感染拡大に対する必要な対策を行いながら、制限された中でも、楽しみや喜びのある生活が過ごせることを願ひ、みんなで力を合わせていかなければと、あらためて思います。

今月号では、年末年始の様子について、紹介いたします。

□事業経過など（2021.12.1～）

月/日(曜)	記 事
12/1(水)	労務管理者研修
2(木)	地域食堂委員会/リスクマネジメント委員会
3(金)	中堅職員研修
6(月)	真鍋叔郎さん、ノーベル物理学賞受賞
7(火)	業務執行会議
8(水)	人材育成PT
9(木)	メンター制度委員会/広報委員会
11(土)	評議員会
14(火)	研修委員会/感染症対策委員会
15(水)	地域食堂ともいき（お弁当販売）
16(木)	防災委員会/はちす苑経営改善PT/栄養士会議
17(金)	ボランティア委員会
20(月)	地域福祉事業部実績会議
21(火)	障害者支援事業部実績会議/インターンシップ体験1名（高齢）
22(水)	前澤友作さん、ISS到着 オミクロン株の市中感染が初めて大阪府で確認
23(木)	インターンシップ体験1名（高齢）
24(金)	佐倉圏域事業部実績会議/インターンシップ体験2名（高齢）
27(月)	高齢者福祉事業部実績会議/インターンシップ体験4名（障害3、高齢1）
28(火)	GO TO トラベル全国一斉に一時停止 すべての国・地域から外国人の入国を原則停止

■おもな出来事

□評議員会開催

12月11日（土）、4名の新しい評議員の方を迎え評議員11名の出席により、2021年度第2回（通算第69回）評議員会が開催されました。議案は、「2021年度第1次補正予算」等でした。リスク対応等、活発な意見が出されました。

■月報から

□今年の忘年会のメニューは、フレンチレストランのお弁当（めいわ）

17日(金)、めいわ忘年会を行なった。昼食は昨年と同じくフレンチレストランのお弁当(シェ・ケン)であった。

色とりどりのものが入った弁当は、和食とは違う楽しみがあった。利用者のなかにはフレンチに合わせ、フォークとナイフで食べる利用者もいた。午後の忘年会では、食事についての感想とミニ歌謡祭を行ない、今年の最後のイベントを思う存分楽しく過ごした。



メイン料理



前菜とデザート

(めいわ課長 李 連淑)

□最高のクリスマス会（ルミエール）

24日にクリスマス会が行われた。12月の日中活動でホーム内への飾りつけ、スノースプレーでの装飾等準備を行っていた。各ホームで会が始まり、フライドチキンやサンドウィッチをおいしそうに召しあがり、プレゼントを受け取る。いつもと違うところはそばにご家族がいないことだろうか。いつものクリスマス会だと利用者ご家族と一緒にプレゼントを受け取り、笑顔が広がるが今年も一緒に参加することはできなかった。それでもみんなで楽しいクリスマス会になるよう盛り上がり、最高のクリスマス会になった。

(ルミエール課長 原 宏之)

□第三者委員活動（リホープ）

5日 第三者委員の四方田清委員が来所し、利用者7名と個別で面接を行った。四方田委員とお会いできるのを楽しみにしている利用者も多く、近況や思っていることを聞いていただき、話が出来て良かったと嬉しそうな様子だった。委員からの総評として、要望については日頃、職員にも伝えており、大きな問題はない。コロナの為の制限がとれて今までの生活に戻ることを願っていると話された方が多かったとのことだった。

(リホープ課長 稲垣 直子)

□師走を感じて！（よもぎの園）

12月に入り“福袋”関連の作業を請け負い、現場が活気づいた。昨年と同様の作業をおこなったが、今年は昨年の倍以上の作業量であった。コロナが少し落ち着いていることもあるが、担当職員が少しでも多く請け負いたいと先方と交渉した結果でもある。

作業内容は数種類のレトルトカレーやスープをセットしていくものであったが何回か経験していたので“よもぎの園の力”をいかに発揮することができた。ほぼ毎日納品に追われるほどの量であったが、利用者も商品が入荷するのを心待ちに「明日もカレーあるよね」と言っているほどであった。

28日が事業所の営業最終日だったが最終日にも納品をおこなうことになり、新年に向けてこの勢いを継続できればと切に願う。

（佐倉市よもぎの園 近藤 真一）

□事業所の枠を超えて（ワークショップかぶらぎ）

佐倉福葉苑から、西濃運輸佐倉物流センターの作業を一緒におこなえないかという話があった。作業内容を伺うと、よもぎの園もおこなえそうな作業のため、一緒に佐倉福葉苑の作業見学、生活介護の話を聞くために、現地に行くことになった。作業は、単価 7 円と設定されているが、作業内容が毎回異なり、納期までの期間も短い。今回、佐倉福葉苑が情報提供した理由として、コロナの影響で市内のB型事業所の受注が減っているなか、西濃運輸の発注量に対し、佐倉福葉苑だけの受注が難しいことになった。依頼作業に応え市内の事業所を支えるために、法人を超えてお互いに協力していけないかと提案があったので引き受ける方向で検討をしている。この動きは、佐倉圏域や当事業所の中期経営計画に繋がる内容ではないかと捉え取り組んでいきたい。

（ワークショップかぶらぎ 高橋 健）

□誕生会、クリスマス会（ジョーの家）

12月は誕生者が2名おり、世話人が中心となり、ささやかではあるが誕生会をおこなった。誕生者の希望メニューを伺い、おでんパーティとなった。皆様よく召し上がっていた。クリスマス会では、行事を楽しみにされ、数日前から食事毎にサンタの帽子をかぶってこられ、温かい雰囲気を作ってください利用者もいた。クリスマス当日は、飾り付け、ピザ、ケーキ等を召し上がり、楽しいひとときを過ごして頂くことができた。

（ジョーの家サービス管理責任者 高橋 健）

□年越し、年明けのイベント（山王の家）

今回で4回目となる年越しのイベント。今年は、7名の利用者が実家へ帰省し、残る3名の利用者からイベントの希望を募った。そして、迎えた大晦日。昼食に年越しそばを食し、夕食はカップ寿司へ。新幹線が運んでくれるマグロやサーモンを堪能した。そして、年明け。成田イオンモールへ買い物に出掛け、フードコートで思い思いに好きなものを食べた。成田山新勝寺への初詣も希望に挙がったが、コロナウイルス感染を考慮し、午後は成田空港の滑走路が一望できる「さくらの山」公園へ出掛けた。2日目は、銚子電鉄に揺られ、犬吠埼灯台へ。犬吠埼神社で初詣を終え、昼食は海鮮丼を堪能した。銚子名物の“ぬれせん”ラーメンに魅かれて注文した利用者もいた。

年末年始に帰省先のない利用者にとって、同じホームの仲間と過ごした楽しい時間が、より一層の絆を深めたのではないだろうか。

（山王の家管理者 高梨 和憲）

□入居者忘年会（はちす苑）

12月の第3日曜日は入居者忘年会である。どんなお食事にするのか『フードサービス係』で話し合った。今年は握り寿司とおでんがメインのごちそうと決まった。

『フードサービス係』は今年度から新設された。疾病や障害もあるが入居者の食事内容をどう提供していくのか入所者の思いも踏まえて検討する委員会である。

マグロは中トロ又は赤身かは好みが分かれるところだが、寿司そのものは食べる気持ちに傾かせる料理であるようだ。少し眠気があっても『おっと？これは…すしか！』と、心のつぶやきが聞こえて覚醒する。

ほたての貝柱も軟らかく噛む力が弱い高齢者でも食べやすいようである。たこは控えたが、いかは入居者に根強い人気がある。切れ目が入って食べやすくなっており、さらにハサミで半分に切って提供した。

すり身を揚げたさつま揚げを煮込むおでんの香りがさらに食欲をかき立てる。まるで屋台で一杯飲めるのかと思わせる。

課長がギターを片手に流しで歌を届けに行く。入居者もわかるような歌の選曲に思わず唇から歌詞がこぼれてメロディーが流れてくる。お酒もちよっとだけは用意しているが、飲んでもいなくてもつかの間のうたげに酔ってしまいそうな楽しさである。

ご家族は参加することは叶わなかったが、いつもそばにいてくれる職員がいる。それだけでも入居者は安心するのではないかと思った。ここは安心できる場所なんだと。はちす苑に古くからいる入居者も、今年になって来たばかりの入居者も、その安心の中で食べたいと思えるのではないかと思う。

（はちす苑 管理栄養士 江口 貴子）

□お風呂のアンケート調査結果報告（南部地域福祉センター）

11月に1か月間来館者すべての方に『お風呂に関するアンケート』を行った。西部地域福祉センターと共通のもので、今後の事業の参考にするためのものである。「お風呂を利用したことがない」と回答した方のうち17%の方がお風呂の存在を知らなかったとなっている。また、意見として「災害時に使えない。災害時に対応してほしい」と書かれていた。ここでもセンターの弱点『アピール不足』が浮き彫りになっている。295名の方に協力いただいたアンケートでの意見を、センターとしてできることを考え、運営に生かしていきたい。

（南部地域福祉センター所長 横川 民夫）

□ Christmas week（佐倉市南部児童センター）

私たちは毎月、「テーマのある生活」を企画している。

12月といえば、イベント Christmas！2年ぶりに、幼児対象のクリスマス会を開催した。とはいえ、以前はクリスマス会の告知をすると100人を下らない来館者。予約制で定員を設けるという方法もあるのだが、できるだけ多くの利用者さんに楽しんでいただきたいと思います。「クリスマスウィーク」と題し、我が児童センター自慢のサンタクロースが、5日間に渡って毎日登場！クリスマスツリーや写真を撮るための専用コーナー（フォトスポット）を設置。子どもたちが描いたイラストを集めて作った壁面装飾など、館内はクリスマス一色に！

以前、子育てについての悩みを話していたママや、思わず愚痴を漏らして首をかしげていたママも、この日ばかりはとてもしそうに、夢中になってサンタクロースと一緒に子どもをカメラに収めていた。中には、5日間「皆勤賞」の親子もいた。子どもと過ごすクリスマスは無敵だ。活力が生まれる「特別な日」なのだと痛感した。

（南部児童センターインストラクター 吉田 知加子）

□2021⇒2022 冬 学童での過ごし方（学童保育所）

恒例の「年末お楽しみ会」も、内容を見直し、楽しみは最大限・時間は最短で企画をした。

そんな中で、学童によっては南部包括による出前講座「認知症サポーター養成講座」や Mr. X 扮装のピエロによる「バルーンアート」を開催した。コロナ禍になって以降、お客様が来たことも久しぶりで、子どもたちの期待は大きく、大歓迎で迎えた。認知症サポーター養成講座では「海馬は脳のどこにありますか？」「そっか、おばあちゃんこんな感じか」など、真剣に、自分なりに消化していた。認知症対応の寸劇に没入し、講座が終わってもなお「あのおばあちゃんと一緒に遊べないか？」と話す子もいた。バルーンアートは作る体験もし、あちこちで風船が割れてはビックリしたり残念がったりしていた。時間いっぱい対応していただき、人気の剣を手にしては、チャンバラごっこ（今の子は戦いごっこと言うそうである）で、大いに盛り上がった。「また来て欲しい！！！」と何度も話していた。

（学童保育所主任 齋藤 理江）

□今年度最後の「としとらん塾」（総合相談センター）

12月は佐倉市の委託事業である「としとらん塾」を3回開催した。3日（金）は千葉薬品（ヤックス）さんの協力の下、フレイルチェック測定会を行った。体組成計や骨密度計を用いて身体の成分分析を測ったり、握力や歩行速度を測定したり、さらに管理栄養士や薬剤師の講和もあつたり盛りだくさんの内容となった。

そして15日（水）と22日（水）の2回は、「コロナ禍におけるフレイル予防」と題し、順天堂大学松山ゼミの学生の皆さんがレクレーションや自宅でできる体操を考えて、高齢者の皆さんに分かりやすく、そして楽しくレクチャーしてくれた。学生の皆さんはコロナ禍で計画していたことができなくなっており、高齢者と接することが初めてという人も多かった。初めは緊張していた様子もあったが、徐々に学生から耳が遠い方の近くに行き話しかけたり、ゲームを一緒に行ったりすることで、和やかな雰囲気になっていた。高齢者の皆さんも若い力に負けないとばかりにパワフルに参加して下さった。

今回としとらん塾において、初めて高齢者と学生が交流できる機会を作った。お互いに刺激し合う場となり、良い取り組みになった。来年度以降も考えていければと思う。

（総合相談センター所長 森 由美子）

■職員状況（12/31現在）

	人数	前月比
正職員	179	-1
サポート職員	30	
非常勤職員	153	1
計	368	2